

「デジタル機器を使用した咬合の与え方
～シークエンシャルオクルージョンの考えを臨床に取り入れる～」

歯科技工士 前川泰一

「形態審美」、「機能咬合」が整う事が最も望まれる最終補綴装置である事は間違いない。前歯部において形態や審美は最重要であり、天然歯に近い補綴装置は治療の成功に直結する。ただ、臼歯部においては、たとえ形態や審美が天然歯にそっくりな補綴装置を作ったとしても、その者の咀嚼運動に適した咬合面形態でなければ機能せず、不良補綴物となってしまう。

前歯部審美領域において、昨今ではフェイススキャン等を使い患者の要望に応えるための診査診断を行う事ができるようになってきている。臼歯部においても、患者一人一人に合った補綴装置を作製するために診査診断が必要だと考えるのは当たり前の事である。

今回はシークエンシャルオクルージョンの概念の説明を通して、「咬合」の重要性と診査診断の基準について少しでも理解していただけるよう考えて発表させていただきます。